

対面形式復活と対象学生の拡大

（令和6年度 明専スクールの振り返って）

電 61 内堀 憲治



はじめに

本年度の明専スクールは、10月24日（土）／11月16日（土）の2日間、対面形式を基本に開催されました。

新型コロナウイルス感染症の影響で安全を最優先にやむなく中止となった2020年度を経て、3年間オンラインのみで実施してきましたが、5類感染症への移行を踏まえ、先生方やスタッフの皆さまと熟考を重ねて、一部都合のつかない先生やOBはオンライン参加としながら基本は対面形式というハイブリッド開催としました。

遠方の他キャンパスの学生も頑

張って通学していただき、各学府、研究科、学部・学科から学生計28名全員が対面形式で参加し、グループディスカッションでは、5チームに分かれて課題に取り組みました。

■ スクール内容

明専スクールのカリキュラムは講義とグループディスカッションの2部構成です。

講義は対面と非同期オンラインの混合で開催されました。

オンラインでは、西尾一政様「加47・元西日本工業大学」による「明専〜九州工大の歴史」、石橋一郎様「制56・北九州市立大学、元(株)安川電機」による「企業における知的財産」の話題を提供しました。また、明専スクール初日には、三谷康範九州工業大学 学長と高原正雄 明専协会会长「機43」のご挨拶と植木幹明専スクール副校長「電H1・TOO(株)」のオリエンテーションの後、

浅辺公彦様（情知H4・(株)野村総合研究所）に企業とは何かを考える対面講義を実施していただきました。



浅辺公彦様による対面講義の様子

グループディスカッションのセッションでは、「学生時代にチーム活動に参加し、具体的な解決策を見出す体験を通じて、社会人として企業理念の実現に主体的に貢献する」という目的を掲げ、企業理念の実現に向けたイノベーションの事例研究を行い、企業の中で「技術に堪能なる

士君子」としてどう行動していくかを議論し、その成果を発表しました。



学生達の堂々とした発表の様子

初日と2日目のスクールの間の3週間も学生主体でオンラインや対面にて議論を重ね、最終発表時ほどのグループもさまざまなユニークな観点から漠然とした難しい課題に対して自分事とした結論と意思を示している様子を見て、毎年のことながら若者の底知れぬポテンシャルを感じました。特に今年はスタッフで評価

した総合点で上位のグループが僅差となり、どのグループも素晴らしい発表となりました。

社会人としては当たり前のように降りかかる正解のない課題を組織の中で少しでも正解に近づけるべく、自ら正しいと思うことを積極的に発信し、他人の意見を謙虚に聞き、建設的に議論していく共創の方法や考え方を少しでも感じてもらったのではないかと思います。

さらに今回のスクールの中で学生の上下関係があまり感じなかったことは良い意味で驚きました。今年度から全学生参加へ拡大したことで5歳程度年齢の離れた学生が集まっており、少し壁ができるのではないかと考えておりましたが、むしろ学部3年生の方が臆すること無く意見を主張しているところを見て、頼もしさや将来性を感じました。

また戸畑、飯塚、若松と少し離れて、普段なかなか交流ができない学生の間にもいい関係が築けたとの話も聞き、スクールの素晴らしい効果を実感しました。

■対面形式の懇親会

本年度から対面での懇親会が復活したことは今回一番良かった点だと感じています。

2021年から3年間はデリバリーサービスを利用してオンラインで懇親会を実施してきました。オンラインならではの良いいところもありましたが、5年ぶりに対面で実施し



懇親会の様子

てやはり会食での会話は対面が一番であると認識できました。

言葉だけでは伝わらない、相手や周りの人の表情や仕草などから得られる情報は莫大で有用であり、人と人との距離を近づけることに有効であると強く感じています。

また今回全学生対象となったことで、これから就職活動に入る学部3年生や院1年生にとって、先輩学生がどのような就職活動を行ってきたのか、そして各OBが各企業や団体でどのような考え方や行動をもって活躍しているのかを失敗談も含めて聞いたことは大きな収穫だったのではないかと思えます。

■最後に

社会はめまぐるしく動き、次から次に課題が生まれています。その課題を如何に組織として解決していくか、その中で個人としてどう成長していくのか、本スクールで学んだ事は必ず社会で役立つことだと約40年間企業に身を置いてきた私も実感しています。

また、多くの学生が積極的に参加し、交流を深めることができたこと



参加者集合写真

はとても嬉しく思いました。

学生思いの先生方、OBの皆さま、スタッフの方々の毎年の運営努力に感謝しながら次回以降も更にスクールが発展していくことを願っております。

(元本田技研工業株)